

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202387		
法人名	医療法人愛和会		
事業所名	ハナレイ倶楽部グループホーム	ユニット名	A
所在地	長崎県佐世保市城山町3-21		
自己評価作成日	平成25年 2月20日	評価結果市町村受理日	平成25年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F
訪問調査日	平成25年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道沿いに施設があるが、裏手から見る景色は自然もあり四季の移り変わりも楽しめ、小・中学生の通学路で子供たちの元気な姿が見られます。通勤者や犬の散歩の方たちとも顔馴染みで御入居者様の優しい笑顔を見る事が出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“ハナレイ倶楽部グループホーム”のリビングには職員が手作りした雛人形やタペストリー等が飾られている。日々のレクでは回想法も取り入れ、昔の釜戸や昔の洗濯機、蓄音機などの絵を見て頂き、昔話や昔の遊び等を引き出す取り組みも続けている。母体病院とも隣接し、24時間体制で医療連携が図られている。ホーム長も看護師であり、利用者の健康管理と共に、職員の体制や負担を考えた業務改善に取り組みられ、2つのユニットの備品(文房具や食器など)の置き方も統一し、職員の異動時にも戸惑いがないように環境整備が行われた。24年度は職員の人員体制も整えられ、調理専門の方を増やす事ができ、日々の生活(業務)の中にも“ゆとり”が生まれてきている。利用者の方が職員に“給料明細書”を渡す取り組みも続けられ、「いつもありがとう。来月もよろしく」等のお言葉を利用者から頂き、職員も笑顔溢れるひと時となっている。ホーム名である“ハナレイ”とはハワイ・カウアイ島にある村の名前であり、職員の花柄の制服も利用者が一緒に柄を選んで下さっている。これからも利用者と職員の笑顔が溢れるホームであるために、更なるチームワークを作っていく予定にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り終了後職員全員で理念を唱え、その理念に沿って御入居者の介護に努めている。	職員の人員体制も整い、チームワークも更に良くなっている。ヒヤリハットや転倒も減り、理念にある“熟練した介護”が提供できるように努めている。“穏やかで豊かなその人らしい生活”のために、生活歴を大切にしたい日々の支援を続けており、以前の職業から、他の利用者のお世話をして下さい方もおられる。	今後も“熟練した介護”の提供を続ける予定であり、職員全員が日々笑顔を忘れず、利用者の方が“穏やかで豊かな生活になるようにチームワーク作りにも努めていく予定である。理念の振り返りをしていく中で、職員個々の頑張りを共有していきたいと考えている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の中学校から職場体験に来られたり、研修を受け入れたり、買い物などは近辺の店を利用し、地域の一員として交流を図っている。	地元の“おくんち”の見学もでき、昔を思い出して「おひねりをあげたい」等の言葉を聞く事ができた。ホームの夏祭り等には家族の方が地域の方(子供達)を連れて来て下さったり、12月24日(夜)には教会の方が讃美歌を唄って下さり、利用者の方々も喜ばれている。中学校の運動会の見学にも行かれている。	保育園児と以前交流をされていたが、4年間くらい交流ができていない。利用者の方も子供達が大好きなので、交流を再開していければと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学を希望される方をいつでも出来るよう玄関に表示したり、快くお迎えし、認知症の理解と支援の方法を現場で見てもらう様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議後は、スタッフに報告し意見交換を行い、サービス向上につなげている。	24年度は利用者と一緒に昼食を食べて頂き、食事風景を見て頂いたり、看取りケアの報告を行い、ホームの取り組みを伝える機会になった。参加者から「災害時に施設を避難場所に利用させてもらいたい」と言う意見を頂き、院長からも「大丈夫ですよ」と言う言葉を頂いている。今後は他の家族にも議事録を見て頂く予定にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の長寿社会課には認定調査や会議の出席・市主催の研修会の参加や相談など常に連携を図り情報の交換に努めている。	ホーム長が更新手続きのために市を訪問したり、会議の案内を市に届けており、顔馴染みの関係になっている。市主催の研修内容で不明点がある時は電話で確認しており、適宜教えて下さっている。佐世保市から災害対策に関する査察も来られ、『問題ない』と言うお言葉を頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険を伴う行動には常に危機感を持って接しながらも、ご入居者の自由な行動の妨げにならない様見守りを行っている。	チームワークも良く、気持ちに“ゆとり”を持って利用者の方に向き合うように努めている。ご本人の気持ちに寄り添い、散歩に出かける機会も多く、利用者の方も穏やかに過ごされている方が多い。今後も職員から出された意見や方法が“真に利用者の立場に立った方法”かどうか、職員全員で慎重に検討していく予定にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが穏やかな気持ち介護に就き、ご入居者に対して虐待に発展しないよう、研修にも参加し意識づけしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については勉強会で学ぶ事ができたが、下恵剤該当者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時はご家族・ご本人に十分な時間を持ち不安・疑問点を話し合い理解し納得して頂く様努めている。又改定時はその都度説明と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置たり、ご家族の意見を聞きご入居者からは日々の生活の中より意見・要望を聞き実践につながる様努めている。	家族の面会時(電話)に体調や近況報告を行い、「何か要望はありませんか?」と聞くようにしている。入浴や排泄支援に関する意見も頂き、日々の生活に反映できるように努めている。入浴回数を増やす事ができた方もおられ、家族も喜んで下さった。夏祭りやクリスマス会の時に家族会を行い、交流の機会が作られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングや施設の勉強会を開き、職員同士で意見や希望を出しあったりして、その都度対応してもらっている。	毎月のカンファレンスでは行事や勤務時間等に関する意見が聞かれ、人員体制も整えられた。翌月の行事の行き先や誕生会、敬老会の料理なども、利用者の希望も取り入れながら、職員間で検討している。和太鼓・踊り・ギターの弾き語り・縫い物・料理・飾り付けが得意など、職員個々のお力を発揮して頂いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日の施設外レクレーションのお手伝いや勉強会の参加は時間外となり、研修参加時は日勤扱いにしている。毎年賞与や昇給もあり、スタッフもほとんどが常勤で定年後も希望に沿ってもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や公演会などは回覧で希望を取ったり、新人やその方に合った研修は管理者が声をかけして積極的に参加し、報告する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設の見学時・予約時に話をしたり、ご入居者との交流と会話で少しでも安心できる様努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の見学や入居時に話を聞いたり、他のご入居者との交友や会話で少しでも安心できる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活状況や今現在ご家族が思っている事・駒っている事を話しやすい雰囲気を作り、耳を傾け今後の関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の訪問や聞き取りで、そのご入居者の合った自立支援を基本としたケアを話し合い、適切なサービスを提供する様調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者を尊重し、1人の人として共に過ごす時間を大切に、心と心の交流を図るよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者の現在の体調や生活ぶりをご家族へ報告したり、希望や要望を聞いたり、協力の依頼を常に行っている。又変化があった時もその都度報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御入居前の美容院の利用や外出も出来るようにし、御親戚・友人や御近所の方等、つながりのある方いつまでも交流できる様な環境作りに努めている。	馴染みの方や場所などを回想法で聞かれており、「山にツツやつくし、筍掘りに行かれていた」等のお話を聞く事ができている。近所の方や教え子の面会もあり、居室でゆっくりと過ごされている。馴染みの床屋の方に来て頂き、安心して散髪をされている方もおられ、家族と一緒に墓参りや馴染みの美容院などに行かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤独感を感じさせない様一人ひとり平等に接し、ご入居者同士の会話が持てる様職員が間に入って支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接や他の病院へ入院された場合は疎遠にならない様、病室へ顔を出しつつまでも繋がりが持てる様相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族へ話しを聞いたり、会話・スタッフ間で情報交換をして、思いやペースに添える様。	レクの時間や入浴時、ゆとりのある時間などに利用者との会話を楽しませている。回想法も取り入れ、昔の釜戸や昔の洗濯機、蓄音機の絵を見て頂き、昔話や昔の遊びを引き出す事も多い。会話の中から思いの把握に努めており、終末期に対しても、「延命治療はしたくない」等の意向も聞かれている。	日々の会話や回想法を通して、職員は多くの情報を把握する事ができている。得られた情報は日々の個別記録に残される事も多いが、今後はセンター方式なども活用し、職員も自由にアセスメント用紙に記録できるシステムを検討していく予定にしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に担当ケアマネ・ご本人・ご家族からの情報でフェイスシートを作成して、又レクレーション時回想法等で出来る限り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者の表情・行動・会話・体調など観察し、記録に残している。又その都度スタッフ間で話し合い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスで問題点や疑問点を話し合いご本人・ご家族の意見も取り入れ介護計画書を作成し、その都度の変更と定期的に評価を行っている。	ご本人や家族の意見を基に、介護計画の原案は計画作成担当者が中心になり作成している。評価は全職員で行っており、MDSを使用し、状況の変化時は計画を変更している。“お手伝い”“買い物”“散歩”などの役割や楽しみも盛り込まれており、今後も“ご本人の計画”と言う視点で、表現にも配慮していく予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者のチェックを毎日チェックし特記事項に記入する時でスタッフは情報を共有でき、問題点があればすぐ話し合うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況によって、環境を整えたり起立歩行訓練など希望に添える様努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や外出・レクリエーション、近くのコンビニや商店の利用、通勤や通学、学生の活動などスタッフと共に地域資源を利用し、又希望を取り入れ毎日を楽しく安全に暮らせるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を聞き決めてもらい、定期的に受診をして頂きその都度今後を含め情報と連絡をとって適切な看護が受けれるようスタッフは情報を共有するよう努めている。	併設病院がかかりつけ医であり、看護師と職員が受診支援をしている。急変時などはその都度家族に報告しており、変化が無い場合は面会時に報告している。ホーム長が看護師でもあり、職員の観察力も高くなっており、日々の健康管理と共に、かかりつけ医への報告も適宜行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が従事している事もあり、状態の報告や急変時の対応・相談で主治医や看護師の指示通りの支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会を心がけ、医師や看護師・介護士との連携を密にとり、隣接の病院へ入院時はスタッフが毎日顔を出し再入居に向け働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けた話し合いを行い、重度化された時に再度ご家族の希望に添い、主治医との連絡を取りながら支援して看取りまで取り組んでいる。重度化から看取りまでのマニュアルを作成し対応できる様にしている。	その方に応じた最善の介護ができるように努めており、職員の不安(特に夜勤時)を軽減できるように、看護師が勉強の機会を作られている。体調に応じて往診にも来て頂く事ができ、23年度には看取りケアが行われ、他の利用者もお部屋で一緒に過ごされ、亡くなられた後も優しい声かけをして下さった。毎日家族の面会もあり、精神誠意の対応をさせて頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や夜間の対応・通報マニュアルを備えており、いつでも見れる。又施設には看護師も従事している為対応等を聞く事ができる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜対応の定期的な防災訓練で避難経路や避難誘導を行い、マニュアルも目につく所に置き、地域の方にも依頼をしている。	年に2回訓練をしており、利用者と消火器業者の方、病院や他事業所も一緒に昼夜想定訓練をしている。訓練後は消火器業者の方が毎回アドバイスを下さり、25年度は消防署の方も一緒に訓練を行う予定にしている。病院や地域の方からの応援体制もできており、スプリンクラーも設置されている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的に敬語を使いプライドを傷つけない様に配慮し、入・退室時はノックや声かけを必ず行っている。	言葉遣いや声の大きさに気をつけており、利用者個々のペースに合わせた対応を心がけている。利用者から毎月“給料明細書”を渡して頂き、「来月もよろしく」などの嬉しいお言葉を頂いている。職員も初心に戻る機会になっている。個人情報の管理も徹底しており、新聞やホームページの掲載は入居時に同意書を頂いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者には分かりやすく話しかけ、傾聴に心がけて何をどうしたいのか聞きだして、自己決定出来る様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを把握して、できるだけその方に合わせたペースで決して無理強いはいさせない様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や外出時の際は一緒に服や装飾品を選び、「可愛いですね」「似合ってます」等気分を盛り上げている。施設内でもカット・パーマ・髪染めをビューティヘルパーの支援を頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる時、好物を取り入れたり季節の旬の物を出したり、一人ひとりに合った食事形態にしている。又ランチョンマットやティッシュ・下膳などの後片付けのお手伝いをして頂いている。音楽を聴きながらスタッフも一緒に食事を取っている。	24年度から昼食は調理専門の方が作って下さっている。利用者の希望も伺いながら旬の料理が作られ、献立チェックの職員が栄養バランスの確認をしている。“もやし姫”とご自分で言われる利用者の方がおられるくらい、“もよしの根切り”やツツむき等の下ごしらえをして下さっている。テーブルには季節の花が飾られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスが偏らない様に工夫し毎食後摂取量をチェックして、水分も食事以外にも十分に確保している。カウンターにはいつでも飲める様お茶を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で口腔ケアが可能な方は見守りを行い、出来ない方は仕上げに磨いて確認し、義歯の手入れまで行っている。必要に応じて歯科受診し情報収集と指導を受けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個人のパターンを把握して、できるだけトイレを使うよう声かけ・誘導を行い、又昼・夜とその方に合った支援をしている。	排泄表を活用し、必要に応じてトイレ誘導する事で失禁やオムツの使用を減らすように努めている。排泄が自立している方もおられ、布パンツを着用されている方も多い。失禁時はさりげなく声かけをしたり、トイレや居室のドアを閉め、羞恥心への配慮も行っている。レベル低下でオムツを使用している方も随時交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の牛乳と時間毎の十分な水分補給をしたり、歩行運動や体操で体を動かしたりメニューも食物繊維が豊富な食材を取り入れている。個々に応じた対応も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や希望で時間・温度・入浴日を変更したり、入浴時もコミュニケーションの場として会話等を楽しみにされている。	希望があれば毎日の入浴も可能である。希望に応じてシャワー浴の方もおられ、ご自分のシャンプーを使っている。入浴を拒まれる場合は声かけを工夫し、入浴回数が増えた方もおられ、家族も喜んで下さった。湯船に浸かり、職員との会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合った入床時間や・照明・室温の調節をして、日中も体調や希望により休息されている。不眠時は会話やお茶などを促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服時は顔と氏名の確認を声を出して、誤薬・飲み忘れがないか個々の支援を行っている。又処方管理表を作り、変更時もその都度ない様を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者のペースに合わせて洗濯たたみやゴミ箱作り下膳などされたり、誕生日会や季節に応じた外出等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気により施設内外の散歩や、近くのコンビニや市場に買い物の利用をしたり、計画を立て定期的な外出で地域との交流を図っている。	天気の良い日は、車いすの方も川の流れを見ながらホーム周辺の散歩をしている。地域の方との会話や挨拶を交わしており、近くのコンビニや商店街での買い物も楽しんでいる。通所の車を使える事もあり、お花見(紫陽花・秋桜など)、九十九島動植物園にも行かれ、回転寿司やジョイフルでの外食も楽しまれた。海上自衛隊資料館では戦争時代のお話を利用者から聞く事ができた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理ができる方は好きな物を購入され、財布から支払いされている。管理が難しい方は家族の同意を得て、面会時に確認をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用されている方の使用・充電・取り次ぎの支援を行っている。郵便物も本人・遠方のご家族には郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーは広くて圧迫感がなく、ベランダには季節に応じた花を植え、室内には生花を生け、室温・換気には充分気を配っている。キッチン是对面式でご入居者の様子や会話もできる。	ダイニングには大きな窓があり、外を歩かれる地域の方と手を振る姿も見られている。職員手作りの雛人形等が飾られ、季節のお花も飾られている。対面式キッチンには椅子があり、調理をする職員と向き合って座り、会話をされる方もおられる。冬は加湿器を使い、朝の掃除や排泄処理後は換気に注意している。ベランダには鉢植えがあり、利用者も一緒に水やりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室でテレビを見られたり読書もされたり、リビングでは皆で楽しく会話やお茶を飲んだりしてゆっくりした時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット以外は筆筒や家族写真他自宅で使っていた品を持参されています。又ご家族からの希望も沿えるようにしている。	たんすや椅子、電気スタンド、テレビ等を持ち込まれている方もおられる。大好きな演歌歌手のポスターを貼られている方や、お位牌や遺影を大切に置かれている方もおられる。家族の方が本やカレンダー、ぬいぐるみ、お花を持ってきて下さっており、ご自分の雑巾で居室の掃除をされる方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく、車椅子の方でも安全に移動できるように環境整備し、フロアーや浴室には手すりを設置している。又浴室・トイレには分かりやすく表示したり夜間もその方に合った灯りを調節している。		

事業所名：グループホーム　ハナレイ倶楽部

作成日：平成　　25　年　　3　月　　10　日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】　注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

優先 順位	項目 番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目　標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	理念を振り返り、今後の介護の実践につなげていく	入居者が今以上に笑顔で楽しく過ごして頂きたい	職員各自が理念の再確認をして、毎日の業務に当たる様カンファレンス等行い、全員が共有できるようにしていく	6　ヶ月
2	23	入居者の現在の思いや暮らしの意向を、出来るだけ聞くよう努めていく	入居者の思いや意向の把握	生活の中での会話やレク時に、職員が心がけて聞き取り、記録も検討していく	6　ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月